

農業用水情報



岩屋ダム利水貯水量 6,190万トン（貯水率100%）

農業用水取水量 2,631万トン（取水率62.8%）（ともに8月10日現在）

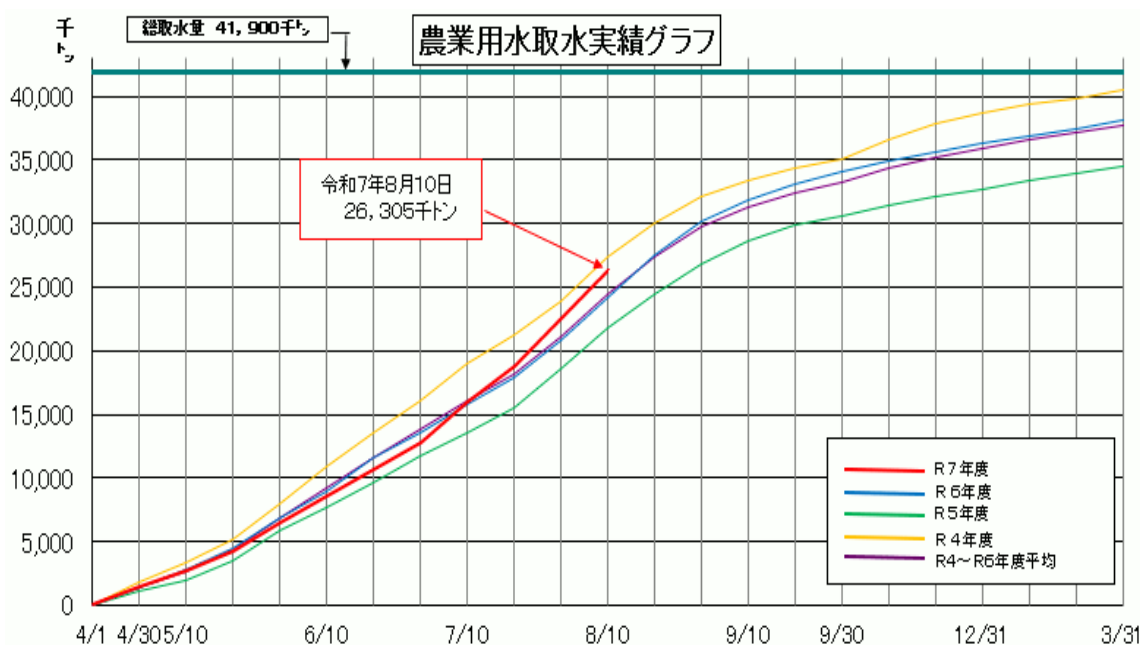
残暑の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。連日、暑い日が続きますが、熱中症には「時間差」があることをご存じでしょうか。一般的に、熱中症の症状は、直射日光や高温多湿の環境に長時間さらされた直後に現れることが多いと考えられています。しかし、実際には、熱中症の症状が遅れて現れるケースも少なくないようです。活動が終わった数時間後、あるいは翌日になってから、急に身体のだるさや頭痛、吐き気といった症状が現れることがあります。身体が受けた熱のダメージが時間をかけて蓄積し、遅れて体調に影響を及ぼすためです。この「時間差熱中症」といわれる症状は、熱中症の中でも特に注意が必要です。症状が出たときにはすでに水分や塩分が大幅に不足していることが多く、放置すると重症化するリスクが高まります。暑い環境での活動後は、たとえその時は体調が良くても、水分補給や適切な休息をしっかりと取ることを意識しましょう。

さて、水源地である岩屋ダムの利水貯水量は、8月10日現在で6,190万トンと満水状態を保っています。東海地方の8月の天候の見通しは、平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年より高くなる見込みとのことです。この時期は普通植えの出穂期を迎え、多くの水を使う時期でもあります。

今後の降雨状況や貯水状況に注視していく必要があります。

農業用水取水量は8月10日現在、2,631万トンで、過去3カ年の平均取水量より191万トン多くなっています。右岸用水における農業用水の年間総取水量は、4,190万トンと定められています。

本年度の水稻用水使用期間も、あと1カ月余りとなりましたが、受益者の皆様には引き続き河川、ため池等の地区内水源を最優先に利用していただくと共に、掛け流しはしないよう節水にご協力をお願いします。



水資源機構 中部支社へ木曽川右岸施設の機能保全に関する要望書を提出しました！

7月29日（火）に、藤井理事長が独立行政法人水資源機構中部支社を訪れ、「木曽川右岸用水施設の機能保全に関する要望書」を提出しました。木曽川右岸用水施設は、緊急改築事業の実施により事業完了後の漏水件数は減少したものの、近年では、揚水機場の老朽化に伴う不具合や、未改築のP C管などの漏水事故が増加傾向にあります。こうした施設の現状を理解いただき、農業用水の安定供給と安全な施設管理を図るため、以下の要望内容を説明するとともに、意見交換を行いました。

- ① 経年劣化による突発的な事故の懸念が高まっている揚水機場の設備について、機能保全計画に基づく具体的対策の実施
- ② 未改築区間のP C管について、機能診断調査の実施及び機能保全計画の見直しを行い、その対策に向けた緊密な連絡調整の推進

なお、本年度は8月28日に水資源機構本社への要望活動を予定しており、その際には、各単区理事長にも参加頂くことになっています。



■ 東海地方の向こう3カ月の天候見通し（令和7年7月22日 名古屋地方気象台発表）

地球温暖化の影響等により、中緯度帯を中心に大気全体の温度が高く、北太平洋の中緯度帯で海面水温が高いことが、この領域で偏西風が北寄りに流れやすいことに寄与し、全国的に暖かい空気に覆われやすい見込みです。

【8月】 天気は平年と同様に晴れの日が多く、気温は平年より高い見込みです。また、降水量はほぼ平年並の見込みです。

【9月】 天気は数日の周期で変わり、気温は平年よりも高い見込みです。また、降水量はほぼ平年並の見込みです。

【10月】 天気は数日の周期で変わりますが、湿った空気や前線などの影響で平年に比べ晴れの日が少なく、気温は平年より高い見込みです。また、降水量は平年並か多い見込みです。